

日本における過去の噴火一覧

(令和 2 年 8 月 1 日現在)

年	火山名	被害の概要
1410 (応永 17)	那須岳	噴石や埋没により死者約 180
1640 (寛永 17)	北海道駒ヶ岳	津波により死者約 700
1741 (寛保元)	渡島大島	津波により死者 1475
1779 (安永 8)	桜島	溶岩流、噴石により死者 153
1781 (天明元)	桜島	海底噴火。津波により死者 8、行方不明 7
1783 (天明 3)	浅間山	火砕流、溶岩流、火山泥流。吾妻川、利根川に洪水。死者 1151
1785 (天明 5)	青ヶ島	死者 130～140。八丈島に避難し 50 年余り無人島に。
1792 (寛政 4)	雲仙岳	眉山崩壊とそれに伴う津波により死者約 15, 000
1822 (文政 5)	有珠山	熱雲により旧虻田部落全滅。死者 50
1856 (安政 3)	北海道駒ヶ岳	1 村落焼失。軽石流により死者約 20
1888 (明治 21)	磐梯山	大泥流により山麓の村落が埋没。死者 461
1900 (明治 33)	安達太良山	火口の硫黄鉱山施設、山林耕地施設に被害。死者 72
1902 (明治 35)	伊豆大島	中央火口丘爆砕。全島民 125 名死亡
1914 (大正 3)	桜島	溶岩流出、村落埋没、焼失。地震鳴動顕著。死者 58
1926 (大正 15)	十勝岳	大泥流発生。2 か村村落埋没。死者 144
1940 (昭和 15)	三宅島	噴石弾、溶岩流出。死者 11
1947 (昭和 22)	浅間山	噴石により死者 11
1952 (昭和 27)	ベヨネース列岩	海底噴火。観測船第 5 海洋丸の避難により全員 (31 名) 死亡
1958 (昭和 33)	阿蘇山	噴石により死者 12 名
1962 (昭和 37)	十勝岳	死者 4、行方不明 1
1974 (昭和 49)	桜島	土石流で死者 8
1974 (昭和 49)	新潟焼山	噴石により死者 3
1977 (昭和 52)	有珠山	泥流、降灰砂、地盤変動。死者 3。有珠新山生成
1979 (昭和 54)	阿蘇山	死者 3、負傷者 11
1983 (昭和 58)	三宅島	溶岩流出、阿古地区家屋焼失・埋没 394 棟
1986 (昭和 61)	伊豆大島	12 年ぶりに噴火。全島民等約 1 万人が島外避難
1990 (平成 2)	雲仙岳	火砕流により死者 41、行方不明 3
2000 (平成 12)	有珠山	爆発により火口群形成
2000 (平成 12)	三宅島	噴石。火砕流を伴う噴火。大量の火山ガス。全島避難
2011 (平成 23)	新燃岳	爆発的噴火による空振が発生
2014 (平成 26)	御嶽山	水蒸気爆発による噴火により死者 58、行方不明者 5 (平成 27 年 11 月 6 日時点)
2015 (平成 27)	口永良部島	噴火により全島避難

※内閣府ホームページ (<http://www.bousai.go.jp/kazan/taisaku/k3.html>) に加筆

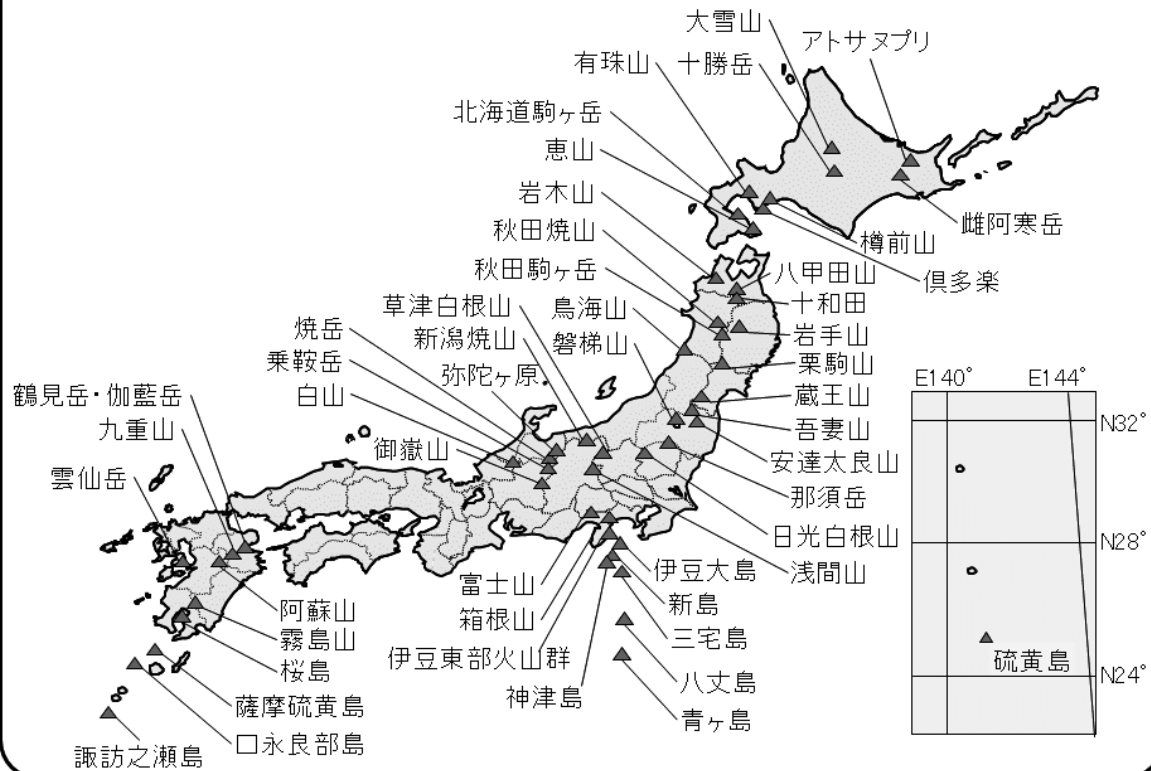
火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山

平成 21 年 6 月、今後 100 年程度の中長期的な噴火の可能性及び社会的影響を踏まえ、「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山」として 47 火山が火山噴火予知連絡会によって選定された。さらに、平成 26 年 11 月、火山噴火予知連絡会のもとに設置された「火山観測体制等に関する検討会」においてとりまとめられた「御嶽山の噴火災害を踏まえた活火山の観測体制の強化に関する緊急提言」により、3 火山が追加された。

気象庁では、噴火の前兆を捉えて噴火警報等を的確に発表するために、地震計、傾斜計、空振計、GNSS 観測装置、遠望カメラ等の観測施設を整備し、関係機関からのデータ提供も受け、火山活動を 24 時間体制で常時観測・監視している。

選定理由	火山名
①近年、噴火活動を繰り返している火山 ・過去数十年程度の間、頻繁に噴火している ・100 年以内の間隔でマグマ噴火を繰り返している	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、伊豆大島、三宅島、硫黄島、阿蘇山、霧島山、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島（23 火山）
②過去 100 年程度以内に火山活動の高まりが認められている火山 ・地震活動 過去 100 年程度の山体浅部の地震活動（マグマの動きに関連したものなど） ・地殻変動 過去 10 年程度のマグマ貫入等に伴う地殻変動 ・噴気活動・地熱活動 過去 100 年程度の活発な噴気活動、地熱活動	アトサヌプリ、大雪山、恵山、岩手山、栗駒山、蔵王山、安達太良山、磐梯山、日光白根山、乗鞍岳、白山、箱根山、伊豆東部火山群、新島、神津島、八丈島、鶴見岳・伽藍岳、九重山、八甲田山、十和田、弥陀ヶ原（21 火山）
③現在異常はみられないが過去の噴火履歴等からみて噴火の可能性が考えられる	岩木山、鳥海山、富士山、雲仙岳（4 火山）
④予測困難な突発的な小噴火の発生時に火口付近で被害が生じる可能性が考えられる	俱多楽、青ヶ島（2 火山）

「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山」
として火山噴火予知連絡会によって選定された50火山



出典：気象庁ホームページ

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/katsukazan_toha/katsukazan_toha.html#kanshikazan